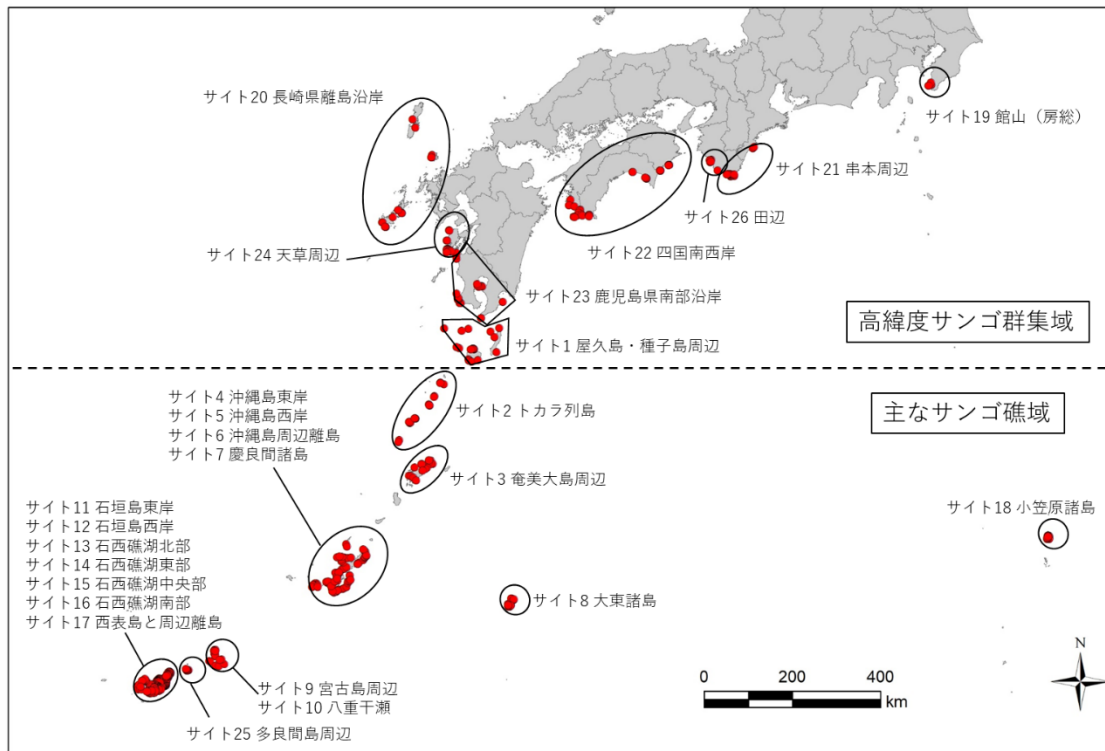


モニタリングサイト 1000 サンゴ礁調査

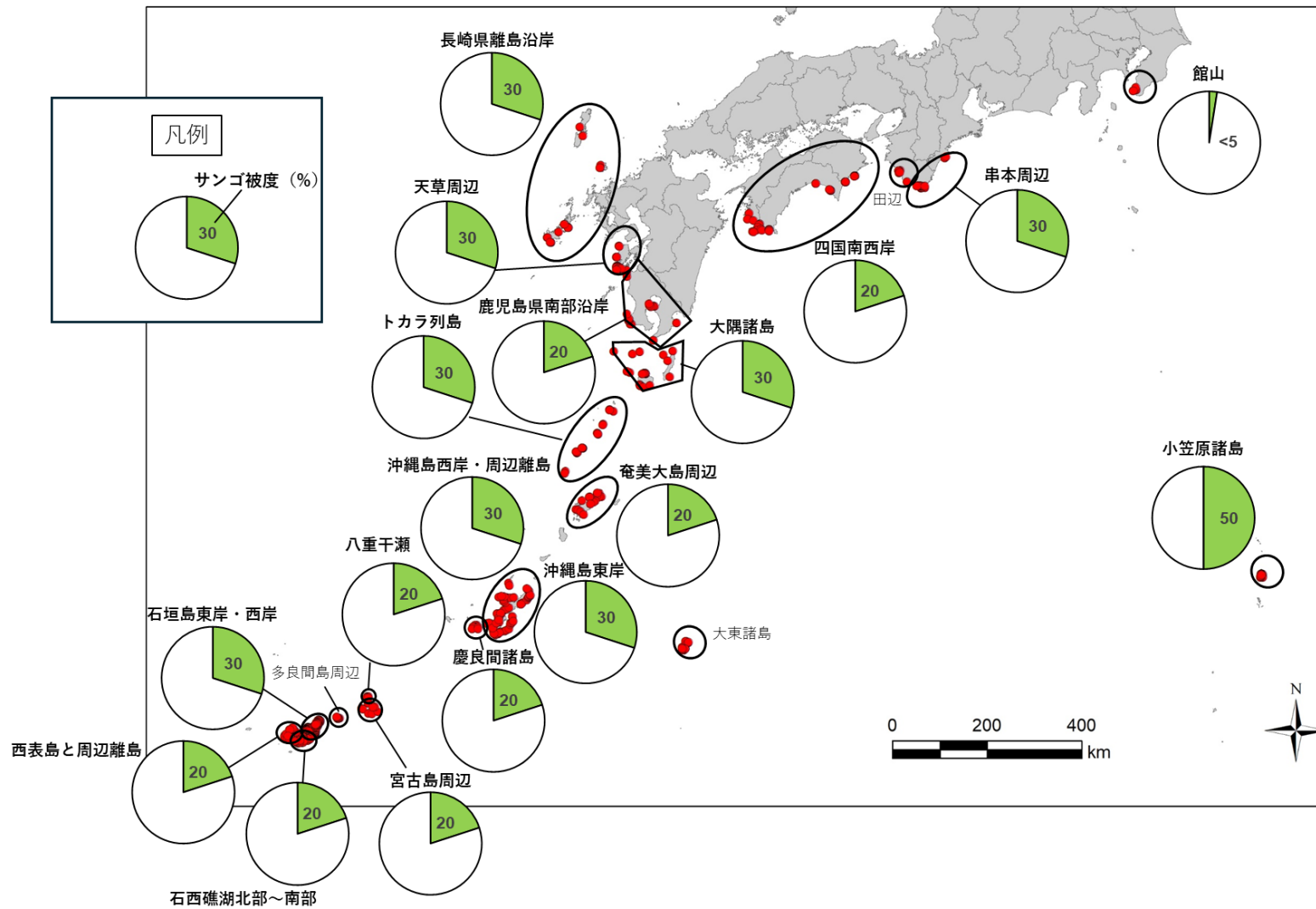
2025 年度とりまとめ結果

モニタリングサイト 1000 サンゴ礁調査では、サンゴ礁の発達する「主なサンゴ礁域」とサンゴ群集が生育する「高緯度サンゴ群集域」に 26 の調査サイトを設置し、これらのサイトで毎年サンゴの調査を行っています（トカラ列島、大東諸島、多良間島周辺、田辺の 4 つのサイトは、5 年に 1 度の調査です）。

ここでは、2025 年度の調査結果の概要をお知らせします。



モニタリングサイト 1000 サンゴ礁調査 サイト位置図



モニタリングサイト 1000 (サンゴ礁調査) における 2005 年度の各地の平均サンゴ被度 (%)

## 各サイト及び海域の概況

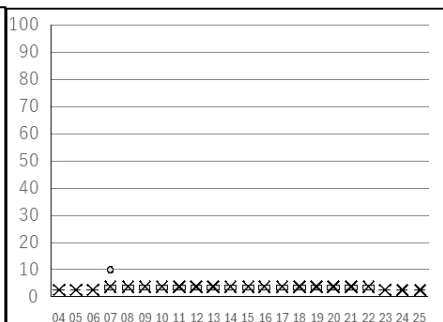
### 高緯度サンゴ群集域

モニタリングサイト 1000 サンゴ礁調査では、サンゴ礁を形成しない温帯域のサンゴ群集分布域のことを「高緯度サンゴ群集域」と呼び、屋久島とトカラ列島の間を境界にしてそれより北側の館山（サイト 19）から大隅諸島（サイト 1）までの 8 サイトとなります。今年度は、田辺（サイト 26）を除いた 7 サイトで調査を実施しました。昨年度多くのサイトで起こっていた白化現象今年度はほとんど確認されなかったが、昨年度の白化の影響で死亡したサンゴによって被度が低下した地点が多く見られたサイトもあった。

なお、グラフは各サイト又は海域の平均サンゴ被度（%）を箱ひげ図で表示したものです。

### 館山(サイト 19) 調査代表者:お茶の水女子大学・清本正人、東京海洋大学・松本有記雄

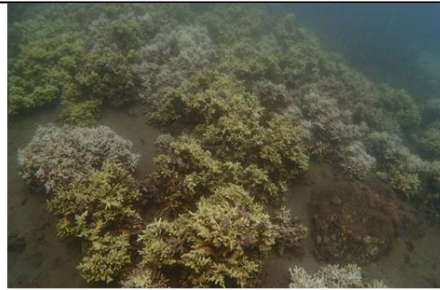
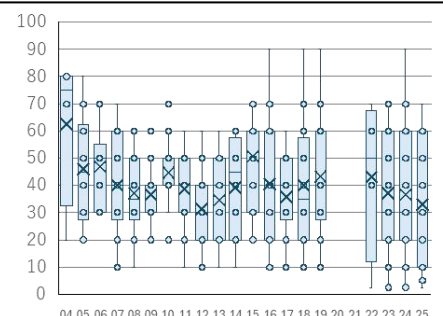
台風やサンゴ食生物、白化などのかく乱は無く、例年同様、低い被度（5%未満）の多種混成型、卓状ミドリイシ優占型及びアワサンゴ優占型のサンゴ群集が健全に維持されている。一部の地点でサンゴの被度は増加しているが、まだ 5%を超えるほどではない。



15cmから1mに成長したミドリイシ(地点2)

### 長崎県離島沿岸(サイト 20) 調査代表者:自然環境研究センター・北野裕子

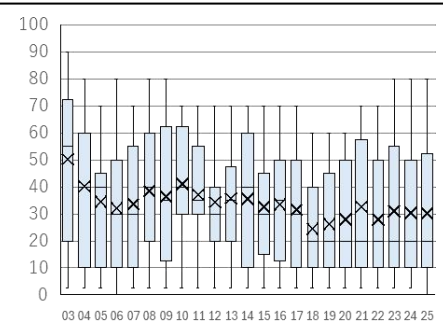
高水温による白化現象が広く発生し、50%を超える高い白化率を示した地点が 5 地点あった。白化に加えて病気（主にホワイトシンドローム）の影響を受けて被度が減少した地点が多く、サイトの平均サンゴ被度が 10 ポイント減少した。



重篤に白化したエダミドリイシ(地点15)

### 串本周辺(サイト 21) 調査代表者:串本海中公園センター・森美枝

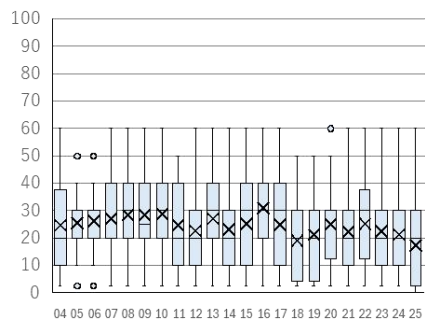
サイト全体の平均被度は 30%で昨年度と同様であった。昨年度見られた高水温による白化現象は改善しており、大きな影響は無かった。一方で感染症は増加傾向が続いており、また波浪によって群落の崩壊が進んでいる地点も確認された。



クシハダミドリイシにみられる感染症(地点8)

**四国南西岸(サイト 22) 調査代表者:黒潮生物研究所・目崎拓真**

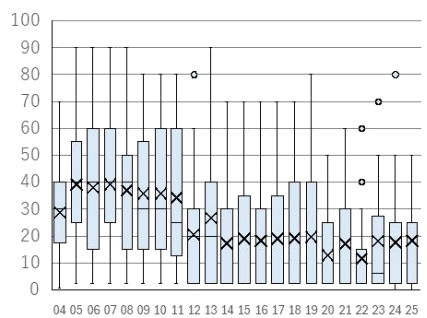
サイト全体の平均被度は 20%で昨年度と同様であった。今年度は白化の影響による斃死は少なかったが、昨年度の白化の影響で大きく被度を減じた地点が複数あった。オニヒトデが増加傾向にある海域が多いため、引き続き注意が必要である。



昨年度の白化で壊滅したミドリイシ群集(地点13)

**鹿児島県南部沿岸(サイト 23) 調査代表者:ダイビングサービス海案内・出羽慎一・出羽尚子**

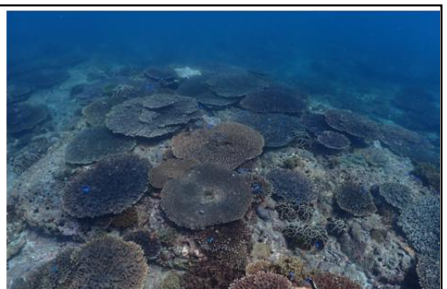
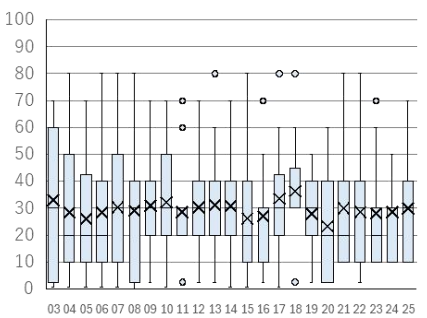
サイト全体の平均被度は 20%で昨年度と同様であった。2022 年度から続いていた白化現象は今年度はほとんど見られず、大きな被害は無かった。一部の地点でサンゴ食生物の食痕が見られるが、全体的にサンゴの状態は良く、被度の増加が期待できる。



被度80%でサンゴの状態も良い(地点6)

**天草周辺(サイト 24) 調査代表者:九州大学天草臨海実験所・新垣誠司**

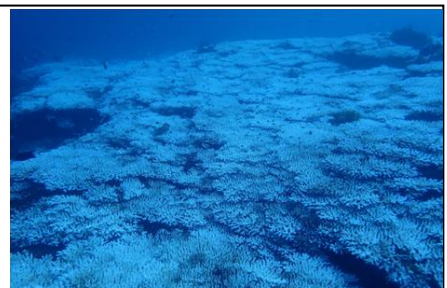
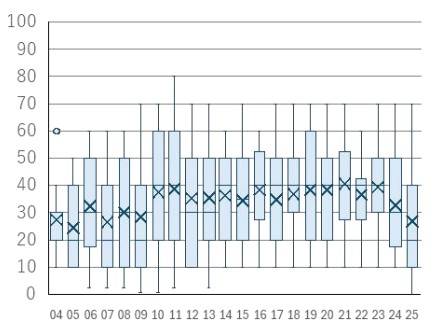
サイト全体の平均被度は 30%で昨年度と同様であった。今年度は白化や台風などの目立ったかく乱は無かった。昨年度の白化の影響を最も強く受けた地点ではサンゴ被度が低下したままだが、一方で被度が緩やかに増加傾向にある地点もある。



サンゴ被度は緩やかに増加傾向にある(地点5)

**大隅諸島(サイト1) 調査代表者:屋久島海洋生物研究会・松本毅**

サイト全体の平均被度は 30%で昨年度と同様であった。平均被度の低下には至っていないが、昨年度の白化の影響で被度を減じた地点が多く見られた。死亡はしていないが、今年度もミドリイシの 90%以上が白化したままの地点もあった。



ミドリイシの90%以上が白化したまま(地点3)

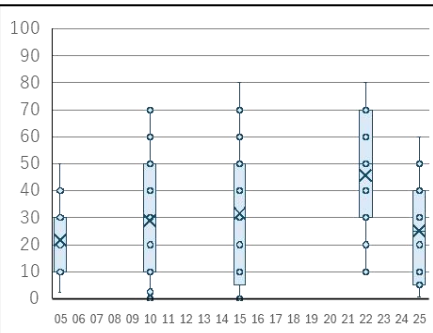
**主なサンゴ礁域**

主なサンゴ礁域とは、サンゴ礁を形成する亜熱帯域を指し、モニタリングサイト 1000 サンゴ礁調査では、トカラ列島（サイト 2）以南の 18 サイトとなります。今年度は、5 年に一度モニタリングを行う遠隔地サイトのうちトカラ列島（サイト 2）で調査を実施し、毎年調査を実施する 15 サイトと合わせて 16 サイトで調査を実施しました。今年度も夏の高水温による大規模な白化現象がみられたサイトがありましたが、死亡率は低く、影響は限定的で、むしろ昨年度の白化の影響によって死亡したサンゴによって被度が減少した地点が多く見られました。

なお、グラフは各サイト又は海域の平均サンゴ被度（%）を箱ひげ図で表示したもので、沖縄島東岸（サイト 4）及び沖縄島西岸・周辺離島（サイト 5・6）のグラフは調査回数が 9 回以上の地点のデータで作成しています。

**トカラ列島(サイト 2) 調査代表者: 自然環境研究センター・北野裕子**

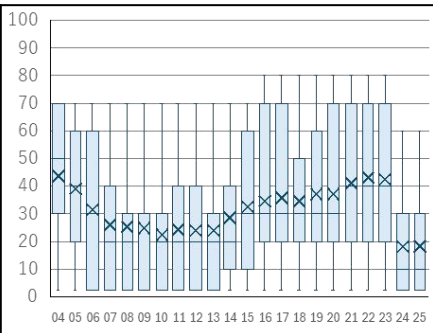
2022 年度以来 3 年ぶりに調査を実施した。前回調査時に白化しつつ生存していたサンゴがその後死亡したためと思われる被度の低下がみられ、また今年度も特に北側にある島の周辺で白化が発生したことで、平均サンゴ被度が 20 ポイント減少した。



サイトの北側海域で白化率が高かった(地点20)

**奄美大島周辺(サイト 3) 調査代表者: ティダ企画有限会社・興克樹**

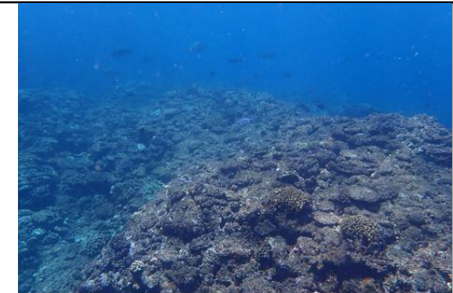
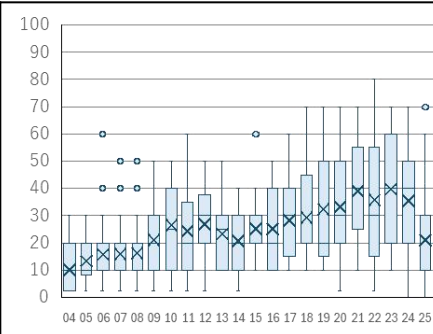
昨年度は書き高水温による大規模白化が発生し、多くのサンゴが死滅したが、今年度は白化は見られておらず、昨年度の白化から回復傾向だった。1998 年の白化の後にはオニヒトデが大発生したが、今回はその兆候はみられない。



昨年度の白化の影響が少なかった地点(地点10)

**沖縄島東岸(サイト 4) 調査代表者: 沖縄県環境科学センター・長田智史**

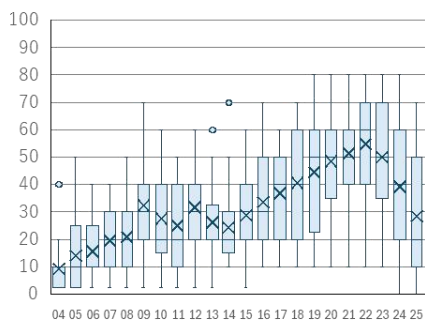
サイト全体の平均サンゴ被度が 10 ポイント減少し、30% になった。被度低下の要因は昨年度夏季の高水温による白化である。全般に浅い水深帯で被度が低く、やや深い水深帯では多様な種類がやや高い被度で分布する傾向がみられた。



特に礁原で、ミドリシ類が減少した(地点5)

**沖縄島西岸・周辺離島(サイト5、6)海域 調査代表者: 沖縄県環境科学センター・長田智史**

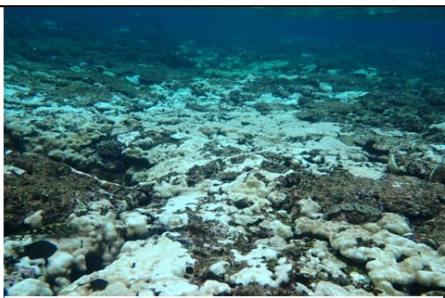
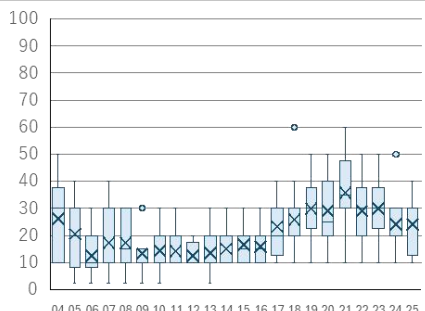
サイト全体の平均サンゴ被度が10ポイント減少し、30%になった。被度低下の要因は昨年度の夏季高水温による白化である。今年度も限られた地点で白化がおきているが、これによる死亡はほぼない。昨年度の白化の影響は浅い海域で強くでている。



浅い水深のサンゴ群落が壊滅(サイト6 地点10)

**慶良間諸島(サイト7) 調査代表者: 熱帯海洋生態研究振興財団・比嘉幹彦**

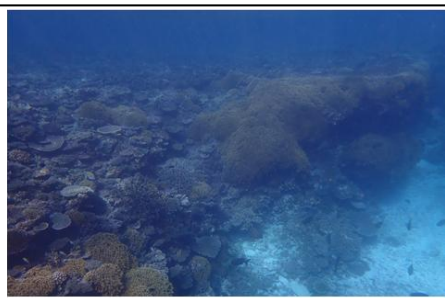
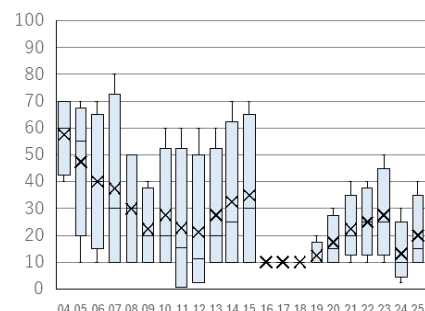
昨年度に引き続き全地点でサンゴの白化が見られたが、大きな影響があった地点は限られ、昨年度の白化から回復傾向の地点も多い。今年度の白化は9~10月の高水温によるもので、一部の地点で昨年度の白化と併せて壊滅的な影響をおよぼした。



昨年度に続いて白化が見られた(地点3)

**八重干瀬(サイト10) 調査代表者: 宮古島市サンゴ礁研究会・梶原健次**

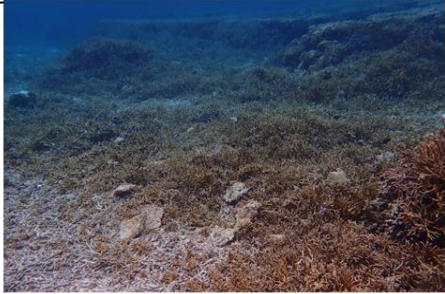
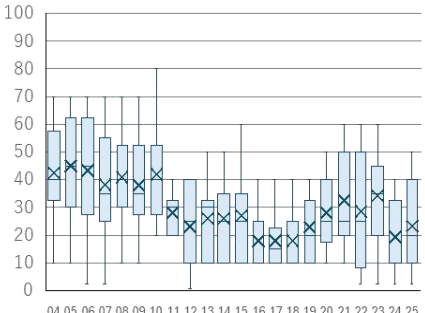
昨年度の夏季高水温による白化での被度の減少から回復傾向にあり、平均サンゴ被度が10ポイント増加して20%になった。一部の地点では、白化から生き残ったコモンサンゴが優占し、調査開始以来初めて生育型がコモンサンゴ優占型に変化した。



被度が回復傾向にある地点(地点2)

**宮古島周辺(サイト9) 調査代表者: 宮古島市サンゴ礁研究会・梶原健次**

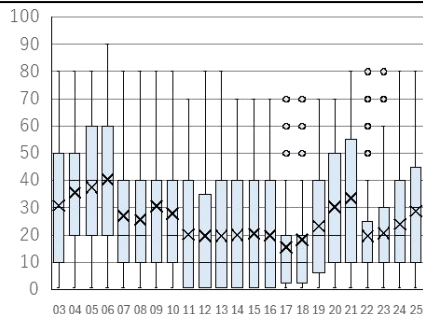
昨年度の夏季高水温による白化での被度の減少から回復傾向にある。加入も多く、様々なサイズのサンゴ群体がある地点もあり、今後のサンゴ被度の増加が期待できる。八重干瀬と同様に、コモンサンゴ優占型になった地点がある。



コモンサンゴ類が優先する地点(地点8)

**石垣島東岸・西岸(サイト 11、12)海域 調査代表者: 有限会社海游・吉田稔**

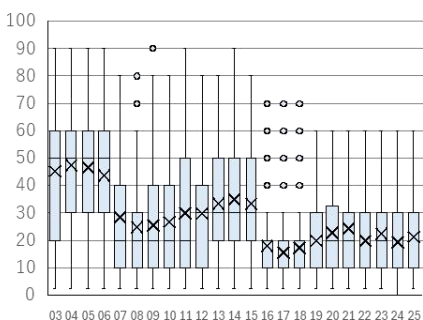
目立ったかく乱は見られず、3年連続で全体的に被度は増加傾向で、サイト全体の平均サンゴ被度は 10 ポイント増加して 30% になった。台風の接近が無かったが、熱帯低気圧などが定期的に発生したため、海水温の上昇が抑えられた。



サンゴ被度が増加した地点(サイト12・地点43)

**石西礁湖北部～南部(サイト 13～16)海域 調査代表者: 自然環境研究センター・北野裕子**

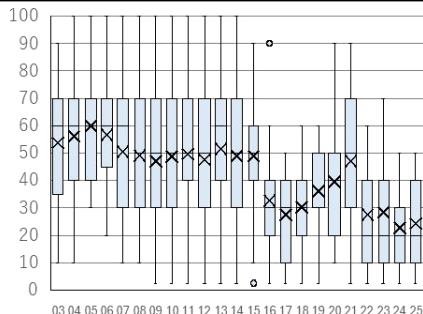
夏季の高水温による白化が今年度も全地点で起こり、平均白化率は 72%であった。ただ、死亡率は昨年度の 32%に対して 4%と低く影響は限定的だった。座礁船の撤去作業で調査を中断していた地点の調査を 2 年ぶりに実施した。



座礁船撤去後の景観(サイト13・地点71)

**西表島及び周辺離島海域(サイト 17) 調査代表者: 自然環境研究センター・北野裕子**

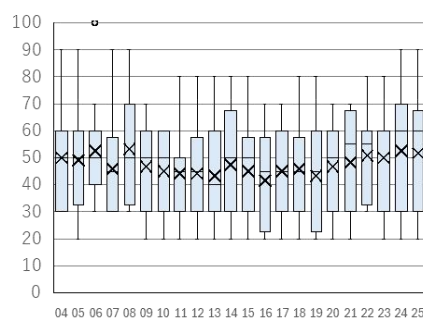
夏季の高水温による白化が今年度も全地点で起こったが、平均白化率は 77%と高いものの平均死亡率は 2%と低く、サイト全体の平均被度は 20%で変わらなかった。オニヒトデ等による食害の影響も軽微でサンゴ被度は増加傾向にある。



今年度も観察されたサンゴの白化(地点131)

**小笠原諸島(サイト 18) 調査代表者: 小笠原自然文化研究所・佐々木哲朗**

サイト全体の平均被度は 50%で昨年度と同様であった。夏季高水温による白化が起こり、7 地点で白化率 10%以上であった。近年高い頻度で確認されていたオニヒトデは今年度は確認されず、駆除試験の効果が出ているものと思われる。



白化率20%の地点(地点2)